広報富士川 5月号

編集 富士川町役場内庶務課広報係
静岡県庵原郡富士川町
発行人 助役 中川国兵
電話 岩渕 3・120・127
印刷所 望月印刷所 電話 岩渕 304

飲料水にうれいなし

前町長故斉藤邦雄氏に感謝状

町営上水道落成式挙行

町営上水道は計画当初より五カ年の才月と六千余万の金額を投じ、現町長、前町長以下当局側、池谷、高岡、若月(幾)、三代にわたる各議長はじめ町議員、特に水道委員の任にあたった各議員の努力と熱意を結集して、ここにその大事業の完成をみるに至つた。

5月11日の吉日を選び、図書館において、その竣工落成式が挙行された。小永井副議長の開式の辞にはじ町長以下当局側、池谷、高まり、中川助役の事業報告次いで池谷町長、坪内議長それぞれ挨拶。感謝状贈呈に水道委員の任にあたつた各議員に対しては、町百年の大計を旗印に、町営上水道布設を企画、一大決心をもつて着手にふみきつた前町長、故斎藤邦雄氏と、工事にあたつて積極的に協力した施工業者六氏計七氏に対して感謝状が贈られた。

祝辞の後、渡辺町議員の閉会の言葉をもつて、無事終了した。

これにより、すつかり機構の整つた町営上水道が、衛生的な飲料水の供給、防火消防の二大目的をおさめて、昭和30年の集団赤痢発生というような事態を二度とひきおこさない町、飲料水欠乏などという最悪時に追いこまれない町、住みよい町をつくるために、フルに活動することとなつた。

来賓を代表し、県公衆衛生課長、及び佐藤県議員の挨拶があった。

前、正副議長に感謝の意、町議会

五月二日、町臨時議会に議長辞職願を提出、議会の許可を得た前議長若月幾太郎氏は、なお一年間、町議会議員として活躍することとなる。議長在任一年の間、長年の議員生活の豊富な経験、優れた知識をもつてあたり、町の発展に努力した前副議長石川均氏も在任当時、よく議長を助けて、町議会のなめらかな運営にあたり、これを記念して5月18日午後一時より第一公民館で記念式典が開催された。

町議会では、前、正副議長の功責をたたえ、敬意を表わすため感謝状を贈呈する運びとなつている。

国保10週年行事記念式典終わる

国民健康保険が設立され、本年はちようど10年目に当たり、それを記念して七時から一回、それぞれ演芸が行なわれた。(詳細は公民だよりに掲載)

式典終了後、夜六時三〇分まで二回、松野地区は夜還を免除することができるとされていたが、今回それを学校卒業後、特別の情によるものは、審査委員会の審議を経て、その金額を軽減又は免除することができると改められた。

正、副町議会議長変わる

奨学資金貸与条例も一部改正

5月2日、町臨時議会が役場会議室において開かれ①富士川町奨学資金貸与条例の一部を改正する条例について②監査委員の選任について③町議会議長の辞職許可について④町議会議長選挙について⑤町議会副議長の辞職許可について⑥町議会副議長の選挙について、以上6議案が審議された結果、次の決定をみた。

①改正要点…以前は教員養成の学校を卒業し、富士川町立の学校に3年以上勤務した人の場合、貸与金の返済が選ばれた。同氏はこれにより町消防団長と町議会議長の要職を兼務する。

②監査委員…石川均氏が選ばれた。

③町議会議長、若月幾太郎氏より辞職願が提出され、採択承認された。

④新議長として坪内佐吉氏が選ばれた。同氏はこれにより町消防団長と町議会議長の要職を兼務する。

⑤町議会副議長、石川均氏より辞職願が提出され、採択承認された。

⑥新副議長として小永井茂作氏が選ばれた。

坪内新議長

本州製紙株式会社岩渕工場総務課長、吉田瑞穂氏―が選ばれた。

町民の皆さんへ

外国へまで報道されたあの大きな鉄道事故、三河島事件は、現業員の、ひいては指揮系統の心のゆるみから生じたものとも云われています。各職域においても、心のゆるみ、志気の低下はその団体の成長を著しくはばみます私は、ここに、あの鉄道事故から学びとらねばならぬ深い意味をとりあげて、私をはじめ職員一同、更に気持をひきしめて、町の行政に努力することをお約束します。

町長 池谷孝太郎

町ぐるみの運動展開

青少年の育成をめざし

町、青少年保護育成連絡会(教育委員会内)では県の連絡会委員会で協議の結果、「わが家の六章」を作成し、町内全世帯に配布、強力に併せて行なわれる「親と子でつくる明るい家庭」運動を町独自の計画で展開すべく呼びかけた。

又、町内行進も行なつた。

スポーツの一般化

指導委員を決定

社会体育指導委員の職務は①スポーツの実技の指導②スポーツの団体、又はその他の団体の行なうスポーツに関する行事に関し協力する③スポーツについて住民一般の理解を深める等々で、当町の体育協会が、独自の組織で自主的な活動を行なうのに対し、これは県の指導に基づいて全般的な社会体育の振興を進めるものであり、町教育委員会では六氏を委員に任命した。

(順序不同)

青柳一郎(体協役員)
太田原政治(〃)
押田秀雄(二中体育主任)
清堅司(一中〃)
深沢省吾(体協役員)
若月伸元(〃)

参議院議員通常選挙迫る

投票日七月一日

参議院議員選挙は来る六月七日公示、七月一日(日曜日)に行なわれることになつた。全国区は改選50名補欠1名、計51名。地方区は改選75名、補欠1名、計76名の選挙。本県は地方区の定数4名、内2名の改選が行なわれる。

(詳報は次号掲載予定)

《渋》自戒

南松野 小林

オレンサン、こんな言葉を使う人があつた。誰よりもすぐれ、そしてもの知りなんだ、といわんばかりの態度でいる人のことをいうのだそうだ。およそ何の会合にも、職場にも、或はまた町内会などにもこの類の人の感情や態度、はたまた認めるとか否とを問わず自分だけが納得し、そして誠しやかに話す、いわゆるひとりよがり、というやつだ。

私達は自分の話や態度によつて、人は何を感じ、どんな思いをするか、ということもたまには真剣に考えてみることが必要ではないだろうか。

能ある鷹は爪を隠す、かえりみられない古い諺だが、こんなのがあつた。

ひとりよがり、もちろんこうした現象は、その場をうかが、聖人君子でない限り、誰人にもあやまちはあるのだ。しかしあやまちはある意味では、ひとりよがりはつつしみたいものだ。

ものは必ずといつていいくらい存在するものらしい。

人の意見や話はもちろん、ものは必ずしもすべてが正しいとは限らない。

ひとりよがりすぎているくらい知っているのだ。しかし今流行のスーダラ節の文句まではいかず、ついつい出てしまうのが、ひとりよがりの場の一二の人のみに限らず、差こそあれ何人にも起り得る現象にはちがいないのだ。しかしあやまちはある意味では、ひとりよがりはつつしみたいものだ。

忘れているわけでもない。

ひとりよがりすぎているくらい知っているのだ。しかし今流行のスーダラ節の文句まではいかず、ついつい出てしまうのが、ひとりよがりの場の一二の人のみに限らず、差こそあれ何人にも起り得る現象にはちがいないのだ。しかしあやまちはある意味では、ひとりよがりはつつしみたいものだ。

婦人少年室協助員

働く青少年や婦人の労働相談と指導、生活相談などは最近ますます重要視されている協助員に、庵原地区として、堺町の稲垣甲子男氏、太田原政治(〃)、押田秀雄(二中体育主任)が候補者として、労働大臣に推せんされた。

お知らせ欄

◉役場民生課より(1)――生活相談は民生委員へ。

病気について、あるいは子供のこと、身体障害についてなど、日常一般の心配ごとは気軽に民生委員に相談することが大切。民生委員は秘密を守り、親切な話相手。必要があれば相談の役所その他に連絡する。悩みがあるとき、困つたときは民生委員へ。

◉(2)母子福祉会総会(未亡人会の改称)

庵原郡母子福祉会総会が5月27日午前9時より公民館で。当日はまた講師を招いて、母親、婦人にとつて有益な講演も開催する予定

◉町史編さん委員会より――富士川町史はは じめ六百頁内外を予定していたが、選択後の最終頁数は八百六十五頁となつた。このため予約配布価額**四百円内外が五百円程度**になる。なお、ただ今印刷中、近々発刊。

◉役場税務課より(1)軽自動車などの申告手続。

原動機付自転車→役場

軽自動車―(要・印鑑証明)→蒲原自家用車組合、販売店

新規手続きの場合、販売店が代理で行なうことが多くなつてきた。これがいろいろと間違いの原因となつている。**必らず本人がその**車をもつて手続きのこと。

廃車の場合は、手続きを済ませぬ限り、いつまでも課税されることになるから**廃車**したらすぐ→**手続**。

◉(2)軽自動車の納期は5月30日限り。

◉中部電力より――町内会単位で街路燈、防犯燈を。

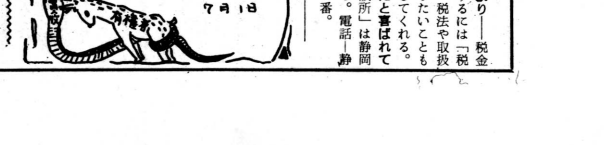
昨年から継続して、町を明るくする運動に協力、28年3月まで経費の割引の特典がある。町内会単位で申込みする街路灯には設置工事の一部を助成する他……法記念日、子供の日、母の日の……

所へ。

◉清水税務署より――税金の不満を解決するには「税務相談所」へ。税法や取扱いについて知りたいことも気持よく応待しています。

きてよかつたと喜ばれている「税務相談所」は静岡税務署内にある。電話―静岡二局八一一一番。

地味



世界中で一番美しいわが国は、外国から船で春の日本列島に近づいたとき、死ぬほどの感激を覚えたのは私一人ではあるまい。

目に青葉、山はとときす初がつお。初がつおとゆかなくても、きす、さば、ひらメバチの味覚。つつじ山吹、矢車いろ、次々とあやめ、かすみ草、しやくやくが咲くその中にも最高にすばらしいのはみかんの花。昔、タジマモリが不老長寿の果実、タチバナ(回青橙、現在のダイダイ、果実が落ちないうちに花をつける)を異国から持ち帰つた話は、この花蜜の風の中で感動したのであろう彼の姿を容易に想像させる。

今後何か小成いは何十年かたつて、こういう五月が喪われていたと気づいたり法記念日、子供の日、母の日(南)

雨空ついて風船あげる
子供の日、第一公民館で

五月五日、富士川地区では、第一公民館において、子供会指導者連絡協議会（子供会のお兄さん、お姉さんたちの会・約60名）主催による「子供の日演劇大会」が催された。

会長・長谷川克仁君の挨拶、池谷町長の祝辞、鍋田第一小校長、塩坂教育長、PTA会長斎藤久雄氏の、はげましの言葉があり、幹事鷹利光君の開会宣言をもつて開始された。

午前中は中之郷地区、午後は本島、岩淵地区、それぞれの子供達にとつて楽しい時間が過ぎ、入場人員は約千名「子供の日」にふさわしく盛大な行事であつた。

午前の終了記念として、「交通事故防止」に関する標語が、子供たち各自手によつて紙に書かれ、それを結びつけた風船が折からどりあざやかな姿を見せての雨空をついて、はるかか飛んで行つた。午後は、人なたへ赤、白、黄、青、色、形を警部補派出所へ贈つた。

新役員の顔ぶれ
婦人会総会

5月17日午前9時30分開かれた婦人会総会は君が代、祝辞、坪内議長、若月前議長の斉唱ではじまり、事業報告、会計報告、新役員の発表、新年度行事予定の発表会長挨拶と進み、ついで前役員に対する賞状、及び神戸とも子、清水寿江、望月よう子、望月まし子、石川のり子三氏の長期間奉任に対する感謝状贈呈に移つた。来賓祝辞では池谷町長の「よく話し合い、よく考えて家庭婦人となる努め、生活を豊かにしましょう」を37年度の相言葉とすることを確認した。

新役員次のとおり（敬称略）会長＝土井せつ、副会長＝養さと子、望月つぎ子、谷津倉ちづ子。理事＝会計支部長＝芦川梅子、小林千代子、西大路春子、大村福子、大久保きわ、池谷ふさ＝会計監査佐野はま、望月はる子、同＝庶務望月八代、渡辺喜美子、森中政子、塩坂道子、中川しづ江、田村タカ、五十嵐美子、斎藤常子、森中まさ子、天野多満きよの、芦川うめ、芳野とし江、望月良子、鈴木みね代子、大村福子、小林たか、田辺天野房子、小林たか、田辺てる子、上野君江、清水きみ子、井出てる、森のぶ江、望月松江、大石静子、石川幸子、稲葉和子、望月よし子、風岡幸子、小川初代、鈴織子、丹羽しづ子、浜村文子、白井いと子、田中ふみ、佐美えみ子、鈴木たけの、

栗の子餅
愛鳥週間

月給トリも入れてくれないかな

相生町タツ坊

連合青年団の大会
新団長に大村倍男君（岩渕）

連合青年団の大会が五月七日午後七時、町立図書館で開かれた。

新役員氏名（敬称略）

本部役員
団　長　大村倍男（岩）
副団長　小林　清（南）
〃　和田久男（富）
〃　藤島義子（岩）
会　計　小永井輝雄（中）
事務局長　斎藤伸夫（木）
事務局員　角替鉛子（岩）

専門部役員
⊙社会文化部
部　長　田中　貞夫（中）
副部長　滝　利光（岩）
〃　遠藤　勝（富）
〃　佐野　貞利（北）
⊙体育部
副部長　武下　晴夫（南）
〃　大木　三山（富）
〃　山本とみ子（富）
部　長　米蔵（中）
⊙参　与
大久保芳夫、望月貢、芦川照光、久保田幸男、若老会、社会見学、文化祭、月仲元、石川文彦、望月キャンプ生活、町政を聞く会、成人式への協力を計画正彦、天野久雄
つづいて感謝状の贈呈が行なわれ――（敬称略）
前団長　石川文彦
前副団長　望月　正彦
〃　浦田八千子
前会計　望月　章光
事務局長　天野　久雄
――計五人が感謝状と記念品を受けた。

昭和36年度事業、並びに決算報告、新年度活動方針事業計画の発表、予算案審議が行なわれて大会の幕はおりた。

⊙社会文化部
年三回のタイムス発行、敬老会、社会見学、文化祭、キャンプ生活、町政を聞く会、成人式への協力を計画
⊙体育部
町民大会参加を中心に、ソフトボール大会、駅伝大会球技大会などを計画。
⊙家政部
夏期化粧講座など新らしい試みを中心に、年三回の料理講習会、養老院、国立病院の慰問などを計画。
⊙事務局
定期総会、団有林下刈り、郡総会参加を計画。

（なお単位団長はまだ決定をみない地区のあるため掲載せず）

子供の日
のびゆく子、体と心へ栄養を。

防げ、子供の事故死、傷、病。
親と子の仲、友だちに。
子は親の持物でない、人間だ。

役場民生課標語集より

おしゃか様隆誕花まつり

五月二十日日曜日、おしゃか様の隆誕を祝う花まつりが、午前九時には第二公民館でそれぞれ開かれた。

慶讃法要後、「立花さん福」一行による演芸会も催された。

これは、仏教会が先に花まつりのために托鉢を行い町民多数の支援を受けて行なわれたものである。

今月の曲

無線広報五月中の曲は、若い人達の声が反映されて午前7時15分「駅馬車」午後5時30分「誇り高き男」が、午前九時から引続き「城ケ島の雨」である。

人の流れ

祝結婚（敬称略）

区名　新郎　新婦　旧姓
本四　米山　隆　幸子　佐野
宮町　古野　茂　美枝　小川
本一　望月　政　鈴子　望月
舟山　望月　尊　政子　高見沢
坂下　植松久和　美巳子　望月
東二　斎藤昌巳　千津子　佐野
鍛冶　小林　茂　春子　滝沢
新四　佐野　豊　昭子　望月
日出　池谷　勉　みさを　稲葉
小池　清　泰二　照子　明石
新町　山崎剛三郎　幸子　佐野
原方　二又川世章　茂子　金指
水ノ口　田中隆之　智子　山本
市場　望月誠一　八千子　浦田
池野三十坂　渡辺一雄　雪子　小沢
新井　小林幸雄　静江　小島
原方　丹羽和巳　たつ子　大倉

祝誕生

区名　氏　名　保護者続柄
小山　植松一典　正美　長男
東二　中島洋輔　四郎　〃

転出した人

区名　氏　名　転出先
宮町　浅場　愛子　富士宮市
新四　山本きよ子　北　海道
小池　清　和代　蒲原町
上町　植松　美枝　山梨県
新町　鈴木　、　郷　富士市
幸町　志村美知子　吉原市
相生町　池谷　功　富士市
宮町　若松ふじ子　三島市
根方　高橋ふみ江　山梨県
池野三十坂　稲葉三千代　鷹岡町
西野下平　和泉　治子　浜松市
上町　富田浩志　隆夫、三男
川坂　若月正幸　正義　三男
本三　木内裕恵　安次　長女
旭町　宇佐美雅代　和雄〃
川坂　若月裕司　芳樹　二男
宮町　渋谷明宏　弘　長男
宮町　塩坂直樹　千之輔〃
木島　芦川憲二　照光　二男
大北　宇佐美芳緒　康彦　二女
道上　朝比奈里有子　鑒長女
根方　小林信光　務　二男

祈冥福

区名　氏　名　年令
小池　蓮池はな　六六
堺町　桐谷きく　六五
本三　佐野うめ　七七
川坂　若月好子　二一
西野　桐山　博　六九

編集後記

三通の投書、二度の電話通報をいただき、非常に参考となり、ありがたく思っています。投書の内、二通は無記名のため返事できずその点、残念です。二通の投書が「地味」欄と、まんがの筆者名をと指摘していましたので入れました。

お地味欄は東、西、南、北、四人で担当することにしており、月号から四月号までは（西）が書きました。

処刑
町の昔ばなし　その五

太刀の一せん、びしつと肉を撃つ、無残な音、定式どおりの浄めの水柄にまで血が撥ね飛んだ。

後手にぐくられた罪人は蒼痛を押しのけ、掘られた目の前の穴に向かつて、獣のように吠えた。

「頼む、頼むう、助けてくれ」。観衆はざわめいた。

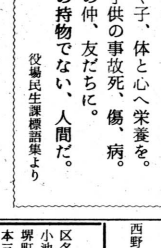
役人は人の目を意識し過ぎて初太刀をしくじつたことを知つて青白んだ。先ほどまでは、幾分、この男を可哀想に思つていたが、今はいまいましさに真の殺気がむら消きあがつた。

二人にへさえつけられた男を目の隅にしつかり捕えて足場を固め、再び刀を振りあげた。空気をつんざいた半円が描かれ、がつんとけい骨を断つた瞬間、血はほとばしりになつた長い髪を引いて九尺ほども飛んだ。そして、半、便意をよおし、階下胸にしみるような鈍重な音がとどくんと、黒い液体がつんめつた男の体から流れて、荒むしろに吸われていく。かい紙をとつて太刀をぬぐう役人の手がときさみに震えた。

「御苦労でした」

上席の役人は、感動の無い声でそうこう云い、さつそくペンをとつて刑の執行の模様を記して、役所への報告書をつくりはじめた。男は上役に軽く答礼した後、二人の、牛馬屠殺を業とする男達に命じて、死体と首を穴に落した。

人々は、あまりにも陰湿な見せしめの場所にいて、生きているのを確かめあうようにさゝやいていたが、やがて、「情」を求めてわきこまれた。



役人は多忙な日を送つた出張も多く、公用を帯びて今夕も富士川を渡り岩淵の宿場に泊ることになつた。

酔のまわつた口に湯呑みの水がうまかつた。そのまま又ぐつすり寝入つたが夜半、便意をよおし、階下に降りた。長い廊下の先に二つのかわやがあつた。用をたして、手水を使つているとき、ふと何かうごめくものを感じたのに気付いた。

あたりを見廻すと、すぐそばに、一間と離れていないもう一方のかわの戸口に人がうづくまっている。苦しげな息づかい、何気なく手をさしのべた時、小声ではあるがはつきりと……

「頼む、頼むう、助けてくれ」とうめいた。

瞬間、はりつめた糸のような感覚にぶらりとひつかゝつぼかりたたかよつてくる糞の臭いだつた。

「ぎやあつ」

千本の針をへべんにたたきこまれたような叫びをあげて、役人は倒れた。

夕日が、館単に輪郭だけを矢来の影を大地に写した。

「この野郎、押入強盗をやつたふうもなく意気地のない奴だ。せつな見せをひつて……、くせえつたらありやあしねえ」

なるほど、むーんと鼻につく、がしかし、たすきをはずしている役人には、かえつてその命の残りかゝつている糞の臭いが、すざましいばかりのせせら笑いとなつて、ひたひた迫つてくるように感じられてならなかつた。

ようやく埋め終り、二人の内の小柄の方が、土盛りした上を踏みつけてから、それでも凹石を乗せた。

一里塚の榎の梢が真赤だが巣へと散つていつた。